

63

中央研究院人文社會
科學研究中心專書

日本文学における

台湾

張季琳 編

中央研究院
人文社會科學
亞太區域研究
專題研究中心



日本文学における

台湾

張季琳 編

鳳凰木 台湾 台南 驛前
木ノ鳳凰木ノ花ノ時期ノ天ニサ
ハ言語ニ絶スル。リボンノヨウナヒ
紅大キナ花ガ実々ト鮮
色ノニニ乗ウテイル。

TAIWAN IN JAPANESE LITERATURE

Edited by Ji-lin Chang



Book Series (63)
Center for Asia-Pacific Area Studies
Research Center for Humanities and Social Sciences
Academia Sinica

ISBN: 978-9860425093
9 789860 425093
GPN: 1010301891

目 次

序章	張季琳	v
西川満の戦後創作活動と 近代日本文学史における第2期台湾ブーム	藤井省三	1
台湾という身体の「再現」—真杉静枝を書くということ—	垂水千恵	41
紀行から批評へ—佐藤春夫が台湾を描くとき—	河野龍也	63
『文芸台湾』時代の邱永漢	張季琳	87
庄司総一『陳夫人』に至る道 —『三田文学』発表の諸作から日中戦争下の文学へ—	大東和重	111
『雅歌』『盛装』『天使』における「純粹小説論」の実践 —横光利一にとっての外地「台湾」の視点から—	謝惠貞	161
大正博覧会「台湾館」の観方—志賀直哉を中心に—	郭南燕	209
童謡による植民地支配及び植民地の目覚め —北原白秋の台湾訪問より台湾童謡募集運動を見る—	吳翠華	245
表象の中の「日月潭」 —植民地時代の日本人作家による表現から—	陳萱	285
執筆者紹介		317

『雅歌』『盛装』『天使』における
「純粹小説論」の實踐
—横光利一—にとっての外地「台湾」の視点から—*

謝惠貞**

一、はじめに

1930年代、プロレタリア文学崩壊後、日本の文壇は混沌たる模索期である「文芸復興」期を迎える。その中で議論を率いた横光利一は、1935年に有名な文芸論「純粹小説論」（『改造』1935.4）を発表した。この議論は大衆文学と読者を奪い合う時代を背景にしており、リアリズムの改革ならびに読者のレベル向上を掲げ、日本文壇に多大な影響を与えた。注目に値するのは、横光がこの論文を書いたのが、植民地である台湾や京城などの地ではじめて新聞小説「天使」（1935.3.1-7.7）を連載した時期であったことである。横光は後日「台湾の記憶」（『台湾日日新報』1938.5.1）の中で、連載中の台湾への想像を回想している。それまでの新聞小説の作者の多くは純文学陣営に軽視されてきた大衆文学者であった。純文学大家の横光

* 小稿で言及する『定本横光利一全集』未収録随筆などは、拙稿（2012）で研究成果の一部として紹介したことを断っておきたい。

** 文藻外語大學日本語文系特任助理教授。

中央研究院人文社會科學研究中心專書（63）

日本文學中的臺灣
日本文学における台湾

主 編：張季琳

出 版 者：中央研究院人文社會科學研究中心

發 行 者：中央研究院人文社會科學研究中心

編輯校對：簡心怡 森田健嗣

封面圖片：立石雅夫先生提供

定 價：平裝 400 元

售書地點：中央研究院人文社會科學研究中心（出版室）

臺北市南港區研究院路 2 段 128 號

電話：（02）2789-8143 傳真：（02）2782-8157

印 刷 者：文盛彩藝事業有限公司

100 臺北市中正區廈門街 34 巷 19 號 1 樓

電話：（02）2369-6300

初 版：中華民國一〇三年十月

平 裝：ISBN：9789860425093 GPN：1010301891

版權所有 不准翻印